

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆生徒の就労を通じた潤いのある社会的自立の実現をしっかりと支援する学校
- ◆生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、より適切で効果的な指導・支援をするために進化する学校
 - ・生徒の一人ひとりの卒業後をみすえ、地域、関係機関等との連携のもと、本校の実践と成果を広く社会に還元する。
 - ・社会の変化や企業ニーズ等をふまえて、生徒の自己選択の力を育成するなど、継続性を見すえた社会参加（就労）を実現する。
 - ・社会の変化や多様性に迅速に対応するため、柔軟で機動力を備えた職員集団となるよう継続的に組織体制を検証し、改善する。

2 中期的目標

- 1 積極的な校外への取組みや地域、関係機関との連携・交流の充実
 - (1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する。
 - (2) 高等支援学校や高校及び共生推進教室設置校との連携や交流機会を拡大する。
 - (3) 地域との協同による「たまがわランド」や「たまがわフェスティバル」等を計画的に運営し、地域に愛される学校をめざす。
- 2 より適切で効果的なマッチングを基本とした進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見すえた教育活動の充実
 - (1) 生徒一人ひとりのニーズ及び新たな職域開拓による就労率の維持、向上を図るとともに、離職率5%以内を継続するなど、関係機関との連携による卒業生の就労継続支援を充実する。
 - (2) 「主体的・対話的な深い学び」及びオンライン授業をはじめとするICTを活用した授業づくりに取り組むなど、生徒のキャリア発達につながる支援教育の充実を図る。
 - (3) キャリア発達支援の観点を重視し、生徒の卒業後を見すえ、自立活動をはじめとする個に応じた指導・支援体制を構築する。
- 3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進
 - (1) 関係機関との連携のさらなる充実、教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成する。
 - (2) イノベーションの観点をふまえた教育活動の検証、改善を進めることにより組織の活性化を図る。
 - (3) 校務の効率化を図り、業務負担の不公平感の是正に向けたルール作成や組織づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答率は生徒(67%)・保護者(67%)とも前年度より2ポイント増加、教職員は全員回収した。アンケートの提出と学校教育への関心とは必ずしも同じではないが、次年度以降も教職員は全員回収をめざし、生徒・保護者についても本校の学校教育全般により関心を持ち、意見を聞かせてもらうためにもできるだけ多く回答してもらう工夫や周知をする必要があると考える。 <p><生徒向け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各質問項目に対し、回答が上位2区分を選択している割合は概ね80%~90%以上で、全ての項目で前年度と同じか、より上回っていた。前年度はコロナ禍により授業に関する設問の肯定的な意見が減っていたが、先生に質問ができる、相談できる、また、進路に関する授業についての項目で向上した。また、交流についての設問では、コロナの影響で今年度も外部との交流が難しい状況が続き、57%と、前年度同様低い数字となった。行事等、少しずつできることが増えてきているので、来年度以降も継続して取り組みたい。 <p><保護者向け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答は概ね90%以上が上位2区分を選択している。学校での授業、行事、道徳や進路指導などの教育活動についての設問ではいずれも高い評価をいただいている一方、生徒と同じく他校との交流についての設問で58%と、前年度を大きく下回っている。部活動などが積極的にできるようになれば、交流の機会も増やしていきたい。また、今年度も学校ホームページへの関心は高い。記述式の提案シートでも、年間予定を掲載してほしい、学校生活の様子を知らせてほしい、などの要望があった。個人情報観点から難しい面もあるが、工夫・検討していきたい。 <p><教職員向け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度比5%以上増加している設問が4問。安全指導や施設・設備の点検について肯定的な意見が増えている。また、生活指導においての保護者との連携については全員が上位2区分を選択している。一方、PTA活動についての設問では50%を下回っている。連絡帳や電話連絡、Tノートを介して、日頃のやり取りは十分にできているが、行事などの特別な活動について、さらに保護者に周知する必要があると考える。減少している項目では、学習形態について話し合う機会が減っていると感じている。研究授業等を通じてチームティーチングについて考える機会を設けたが、さらに研修を深めていきたい。 <p><共生推進教室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目で90%以上が上位2区分を選択した。たまがわの教員との関係ができ相談できる、また、保護者も学校の様子がわかる、と肯定的な意見が多かった。学校ホームページに関しての設問では共生推進教室でも肯定的な意見が大きく下回る結果となった。 	<p>第1回 6月25日実施</p> <p><主な案件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2の学校経営計画及び学校評価の説明 ・R3の学校経営計画の説明 ・進路指導、生徒指導の状況についてなど <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労率の維持及び定着率の向上で、目標値が、離職率5%以内だったのが、10%以内になっているのはなぜか？ ・中学校等教員向けの公開授業はどのように行うのか？ ・学校運営協議会の意見をどう反映するのか、考えていかれると思うが、常に念頭に置いて指導してほしい。 <p>第2回 12月23日実施</p> <p><主な案件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の進捗状況の説明 ・学校教育自己診断、授業アンケート実施の説明 ・進路指導、生徒指導、部活動の状況について・・・など <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・離職率が高くなっている。ミスマッチを防ぐ工夫がもっと必要では・・・ ・共生推進教室の様子を教えてください。 ・授業アンケートと学校教育自己診断アンケートで内容が似た項目があるが、どう違うのか？ <p>第3回 3月16日実施</p> <p><主な案件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3学校評価案、R4学校経営計画案について ・R3授業アンケート分析結果について ・R3学校教育自己診断アンケート分析結果について <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・離職率の改善についてもう少し頑張ってください。 ・離職率を減らす対策を考えてほしい。 ・「あなたは、授業中に思ったことや考えたことを話すことはできますか」の項目が下がっているので、授業の中で工夫してほしい。 ・ICTの活用など、新しい授業の取組みで学力向上などの成果を期待する。 ・PTA活動の設問の肯定率が50%を下回っていたので次年度の課題とした。

府立たまがわ高等支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 教育活動の外部への発信と関係機関との連携・交流	<p>(1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する。</p> <p>(2) 他校との連携・交流・支援</p> <p>(3) 地域に根ざした学校教育活動</p>	<p>(1) ア 障がい者就業・生活支援センターやハローワーク等の関係外部機関との連携 イ SSW を活用し、各福祉関係機関等と連携を取っていく。</p> <p>(2) ア 高等支援5校間の連携のさらなる充実 イ 共生推進教室設置校と、生徒間、教職員間の交流の機会を充実する</p> <p>(3) ア 「たまがわランド」やマルシェ等を計画的な運営を進め、生徒と関係機関や地域とのかかわりを増やす。 イ 地域の支援学級、支援学校への情報提供を新たなスタンスで構築していく</p>	<p>(1) ア 各機関との懇談会等のべ35機関 [19機関] イ 連携構築が出来た各福祉関係機関等と、担任や分掌担当が、随時相談などの実績を今年度中に作っていく。</p> <p>(2) ア 高等支援学校教員連絡会を活用した共通課題を整理・解決する。 イ 新たな交流方法を検討し実施する。</p> <p>(3) ア ・職業学科における物品販売等の機会を年間で10回以上開催する(昨年度よりの継続) ・地域・事業所等の交流を再開し、新たな取組みを模索する。 [9回] イ ・府全域の中学校等教員向けの公開授業を7月までに実施。 ・中学校等3年生を対象の体験授業を実施。 ・HP上に学校紹介用の新たな情報コンテンツを作成(6月)</p>	<p>(1) ア 前期のコロナ禍もあり、各機関との懇談会等は、のべ28回に留まった(△) イ 各福祉関係機関と生徒・保護者の相談を通じて連携でき、分掌担当との連携も深まった。(○)</p> <p>(2) ア 高等支援学校教員連絡会を活用し、マトリックスの改善や配布の1人1台端末のルール作りなど幅広く協議できた(○) イ 外部機関講師の授業や校外学習等にも参加し、共生推進教室設置校で、本校職業科で製作の食品加工品を交流販売した(◎)</p> <p>(3) ア ・マルシェは実施方法等を新たに工夫して月1で開催し、年間9回実施でき、他の物品販売は5回実施できた(○) ・コロナ禍の中、5回程度しか取組みできなかった(△) イ ・府全域の中学校等教員向けの公開授業を7月に実施できた。(○) ・中学校等3年生を対象の体験授業を7月末に実施できた。(○) ・HP上に学校紹介用の新たな情報コンテンツを作成(6月)した(○)</p>
2 よの適応で効果的・進捗指導体制の確立・生徒の社会的自立をめざす教育活動の充実	<p>(1) 就労率の維持及び定着率の向上</p> <p>(2) 確かな学力の育成</p> <p>(3) キャリア教育(キャリア発達支援)及び教育相談機能の充実</p> <p>(4) 発達支援の視点を柱とした自立活動の充実</p> <p>(5) 生徒会活動、部活動の充実</p>	<p>(1) ア 高校卒業求人など、幅広く求人情報を収集し、新規実習及び新規就労受入れ事業所開拓 イ 卒業後のアフターフォロー体制を充実する</p> <p>(2) ア 新学習指導要領を踏まえつつ、個別性を重視した「わかる授業」作りへのアプローチの確立。 イ ICT 機器を活用した授業充実に向けた環境整備の推進。</p> <p>(3) ア 「キャリアプランニングマトリックス」を基盤とするキャリア教育の充実 イ 教職員によるキャリア教育への理解の浸透</p> <p>(4) ア Tノートの活用と充実 イ アセスメントの視点を重視した自立活動の推進と充実 ウ 生徒の参画による相談室の整備</p> <p>(5) ア 生徒の主体性を育成し、委員会活動等を活性化させる イ 部活動加入率の向上等、活動のさらなる充実</p>	<p>(1) ア 新規実習及び就労受入れ事業所 50社以上 [40社] イ ・卒業生の巡回相談等を実施(7月終了予定) ・1年後の離職者10%以内をめざす。 [11.1%]</p> <p>(2) ア 「チームティーチング力向上」「生徒の主体性を高める」をテーマに研究授業を実施する。 イ ・教職員向け「学習支援クラウドサービス」の活用研修会を年2回行う。</p> <p>(3) ア 全学年対象のキャリア教育計画を検証し改善(年度内) イ 校内学習会の内容(個別の教育支援計画、移行支援計画など)にキャリア発達支援の視点を焦点化して実施。</p> <p>(4) ア Tノートの更なる改善に向けて継続して検証する。 イ 認知機能トレーニング(コグトレ)等の発達支援の視点をふまえた自立活動を継続的にし、個別の教育支援計画等に反映させる。 ウ 生徒会の参画による相談室の活用及び改善をする</p> <p>(5) ア ・生徒会ミーティングを定例化し開催する。 ・生徒の主体的な意見をもとに、校外活動を含めた取り組みを1つ以上実施。 イ ・部活動内容の幅を広げるなどの工夫を行い、加入率80%以上を継続する [R1 84% R2 86%]</p>	<p>(1) ア コロナ禍の中、新規実習及び就労受入れ事業所を45社開拓できた(○) イ ・卒業生の巡回相談等は10月迄に完了(○) ・1年後の離職者は12.5%となり課題として残っている。(△)</p> <p>(2) ア 「チームティーチング力向上」「生徒の主体性を高める」をテーマに初任者研究授業をもとに協議を実施した。(○) イ ・教職員向けにGIGAスクールサポーターなどによる研修会を複数回実施(○)</p> <p>(3) ア イ 改善したキャリアマトリックスを使用し、個別の指導計画等に、クラス毎に数人の生徒の仮入力を試行した。また、担当分掌を決めて、次年度の本格運用の目処を立てた。(○)</p> <p>(4) ア Tノートを活用し、三者懇談で「未来の自分実現計画」の目標確認を行えた。(○) イ 個別の教育支援計画等には反映させられていないが、継続的に週2回のペースでの実施が定着できている。(△) ウ 生徒会ミーティングの定期的な活用ができ、今後の相談室における什器組立設置等も計画している。(○)</p> <p>(5) ア ・生徒会ミーティングを週2回で定例化。生徒会とは別に「より良い学校作りの会」を新設し、活動人数を拡大している。(◎) ・生徒自ら販売実習室をカフェデザインにリフォームするなど有志も巻き込んだ活動活性化に取り組んだ(◎) イ コロナ禍での活動制限が影響した結果(体験入部が6月以降にずれ込んだ)、今年度は、72%の加入率であった。(△)</p>

府立たまがわ高等支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 進取の機運に富んだ校内体制の確立</p>	<p>(1) 校内研修の充実</p> <p>(2) 教科・分掌横断的な取組みの充実</p> <p>(3) ワークライフ・バランス</p>	<p>(1) ア 支援教育の専門性、学習指導要領の内容をふまえた計画的・効果的な研修の実施 イ 校内研修の内容の精選、充実を図る</p> <p>(2) ア 他教科の授業工夫の観覧のため相互授業参観の徹底 イ SSWをはじめとする専門家、外部機関との連携の充実 ウ 学校経営推進費獲得をめざし、校内コンペティションを経て取り組んでいく。</p> <p>(3) 定時退庁日の更なる取組みの推進や業務の精選を議論し、昨年度コロナ禍で増加した時間外勤務の減少に繋げる。</p>	<p>(1) ア 各種研修の受講者アンケートの回答（４段階評価で平均 3.0 以上）をめざす。 イ 人権にかかわる内容や「生徒の発達支援」「TT の充実」などをテーマとする校内研修、学習会を外部講師招聘なども含め実施。</p> <p>(2) ア 教員授業相互見学の充実（1人 2.2 回以上） [1.5 回] イ 専門機関と連携した支援方法の相談を、各分掌と協力して、気軽に実施できる場を設定する。 ウ 獲得できた場合は、PT を設置し、出来なかった場合でも毎年の整備を検討する。</p> <p>(3) ・ 定時退庁日の更なる実施をめざす。（達成率 90%以上） ・ 一人当たりの時間外勤務の年間平均時間が、支援学校全体の一人当たり年間平均時間を下回る。</p>	<p>(1) ア 各種研修の受講者アンケートの回答平均は 3.79 であった。(◎) イ 「生徒の発達支援」「TT の充実」などをテーマとする校内研修、学習会を外部講師招聘なども含め実施できた。(○)</p> <p>(2) ア 教員授業相互見学の 1 人平均は 1.69 であった。見学者の授業観察シート提出を徹底させたい。(△) イ コロナ禍の中思うように連携出来なかったが、専門家との相談方法の見直しも含め相談環境は改善できた(○) ウ 獲得はならなかったが、校長マネジメント予算で会議室にモデルとして、電子黒板機能付きのプロジェクターを設置し活用。(○)</p> <p>(3) ・ 定時退庁日（毎週水曜日）は達成率平均約 94%以上であった。(○) ・ 本校の一人当たりの時間外勤務の年間平均時間が、支援学校全体の年間平均時間を約 4 時間程度上回ってしまった。分析し次年度の取組の参考にしたい(△)</p>
---	--	--	---	---